

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立越谷西特別支援学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ III ・ IV ・ ⑤ (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学部 5年生・6年生 児童26名 教員9名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他(オリンピック・パラリンピックについて知ろう・ 振り返ろう) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	○オリンピック、パラリンピックについての簡単な知識について 知る ○オリンピック、パラリンピックの種目について知る ○オリンピック、パラリンピックの種目の中で、普段体験できる 機会の少ない種目を体験する。
5 取組内容	○「オリンピック・パラリンピックについて知ろう」 日 時：5月13日(木) 学習単位：各学年 学習内容：DVD 視聴 ○「オリンピック・パラリンピック種目を体験してみよう」 日 時：9月10日(金) 学習単位：5・6年生合同 学習内容：・ダイジェスト映像の視聴 ・種目体験 卓球体験 ストラックアウト体験 車椅子体験 キックボード体験 ・描画
6 主な成果	○「オリンピック・パラリンピックについて知ろう」では、DVD 映像の中で、特にパラリンピック種目の中から「この種目楽し そうだね」「やってみたい」など、児童からの声があがった。



○「オリンピック・パラリンピック種目を体験してみよう」では、各種目を楽しみながら取り組む児童の姿がたくさんみられた。特に卓球体験では、教師が想像していた以上に玉をラケットで捉え、打ち返すことができる児童が多くみられた。また力を調整してラリーに発展するペアもあった。車椅子体験においても、自走式の手椅子を目標地点に向かって積極的に動かす姿が見られた。普段経験しないような用具に触れることができ、児童も興味を持ちながら積極的に活動することができた。



○描画ではオリンピック・パラリンピックの競技写真等をカラー印刷し、見本として扱った。「これは何をしていますか？」の質問に、児童なりに連想しながら答えることができた。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○卓球体験では、ネットを外した台を用意することで、児童がラリーをしやすいよう工夫した。</p> <p>○ストラックアウト体験では、柔らかいカラーボール、バット、バドミントンラケット、スポンジのついた打ちやすいシャトル、ソフトラグビーボールなど様々な用具を準備したことにより、児童が選択しながら投げる、打つ、蹴るなどの動作を体験できた。</p> <p>○キックボード体験は、本来であればスケートボードを体験させたかったが児童の安全を考慮し、キックボードを取り扱った。マーカーでコースを設定することで、児童の興味が高まり、楽しみながら取り組む児童が多かった。</p> <p>○車椅子体験では、児童に応じて距離を短くすることや、往復するコースを設定した。車椅子の向きを変えることに苦戦する児童がたくさんいたが、操作することに楽しさを感じながら取り組むことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○動画が長かったので、スポーツに興味のない児童はなかなか画面に注目することができなかつたため、声かけ等の工夫が必要だった。</p> <p>○車椅子を操作する活動で留めてしまったため、車椅子バスケットや車椅子テニスなど、パラリンピック種目に繋げて学習しても良かった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック種目の競技体験を体育の授業や遊びの指導で積極的に行っていきたい。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立越谷西特別支援学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ III ・ IV ・ ⑤ (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	小学部 5年生・6年生 児童26名 教員9名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体 育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	○オリンピック、パラリンピックについての簡単な知識について知る ○パラリンピック選手と一緒に運動し、スポーツ体験をすることができる
5 取組内容	○開催日時及び会場 日 時：令和3年10月22日（金） 10時半～12時 会 場：県立越谷西特別支援学校体育館 学習単位：5・6年生 ○講 師：小久保寛太選手（パラリンピック陸上走り幅跳び） ○内 容 (1) 当日の流れ ① 講師紹介



②質問コーナー



③準備運動



④試技観戦「ハードル」「走り幅跳び」



⑤選手と一緒に運動「ハードル」「ラダー」



⑥記念撮影・子供達が作ったメダル贈呈



(2) 事前学習

Youtube を活用し、学年ごとに小久保選手の高校時代の映像、世界選手権の映像、東京オリンピックの映像を見ながら事前学習を行った。

(3) 事後学習

小久保選手と一緒に活動した当日の写真や映像を振り返り、感想発表等を行った。

6 主な成果	<p>○事前学習でオリンピック・パラリンピックの映像を見せた際は、よく画面に注目し見ている児童の姿が多くみられた。また実際に4つの体験【卓球、蹴る・投げる(ボールを使った種目)、スケートボードスラローム(キックボード)、車椅子(2点間移動)】を行ったことも日頃の体育ではあまり行わない活動ができ、児童も楽しく取り組むことができた。</p> <p>○当日は小久保選手に試技を見せてもらったり、子供達と一緒に走っていただいたことで、子供達も意欲的に活動することができた。</p> <p>○パラリンピックの種目に触れたことで、教師においても新しい種目や競技の発見があり、今後遊びや授業で扱えるのではないかと、というようなアイデアの幅が広がった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○講師(小久保選手)のビデオを事前学習で見た後、写真カードにして黒板に掲示することで、児童は自然と名前を覚え、当日の期待感をより高めることができた。</p> <p>○当日は雨天のため体育館での活動となってしまったが、むしろ近くで見たり、交流することができたことや児童の動きを把握しやすい部分が功を奏した。</p> <p>○単純な徒競走を一列になって繰り返し行ったことが良かった。「小久保選手より速く走るぞ」と気合十分に走る児童の姿がたくさんみられた。</p>
8主な課題等	<p>○講師や関係者と電話や文面でやりとりを行い準備したが、簡単な内容程度になってしまった。もう少し細部まで確認し、連携を図れると良かった。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックについての学習を、学年全体で行ったが児童の実態幅が広く、簡単な内容になってしまった。理解のある児童には、より深い内容を取り上げて良かったか。また単発的にならないための今後の工夫が必要であると感じた。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○授業等で継続的にオリンピック・パラリンピックに触れ、種目や競技体験等を体育の授業や遊びの指導で積極的に行っていきたい。</p>